

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 5 月 21 日現在

機関番号：30103

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2010～2014

課題番号：22520405

研究課題名(和文)北海道および周辺地域における他動性交替と文法関係

研究課題名(英文)Transitivity alternation and grammatical relations in the languages around Hokkaido

研究代表者

佐々木 冠 (Sasaki, Kan)

札幌学院大学・経営学部・教授

研究者番号：80312784

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,100,000円

研究成果の概要(和文)：日本語北海道・東北方言、アイヌ語、ニヴフ語の他動性交替(自動詞を他動詞にしたり、他動詞を自動詞にしたりする現象)に関連するデータを収集し分析を行った。その結果、語彙的な他動性交替に関してはこれらの言語が異なる性質を示すが、生産的な形態法を使った他動性交替に関しては自動化と他動詞化の両方が存在する点で共通性を示すことがわかった。北海道・東北以外の日本語方言が生産的な他動性交替に関して他動詞化(使役化)しかないことを考えると上記の語族を超えた共通性は地域特徴と考えることができる。このプロジェクトの研究成果は2014年に国内で出版されただけでなく2015年には海外の学会でも発表される予定である。

研究成果の概要(英文)：Through this project we collected and analyzed data concerning the transitivity alternation in Hokkaido Japanese, Tohoku Japanese, Ainu and Nivkh. As a consequence, we clarified that the northern Japanese dialects, Ainu and Nivkh share the property that transitivity alternation using productive morphology is bi-directional although these languages differ with respect to the lexical transitivity alternation. The Japanese dialects spoken outside Hokkaido and Tohoku have only productive causativization but they lack productive anticausativization. This asymmetry found in Japanese dialects indicates that the commonality among the languages around Hokkaido can be regarded as an instance of an areal feature. The result of research was published in 2014 in Japan. In 2015, we will make a presentation at an international conference.

研究分野：言語学

キーワード：他動性交替 使役 逆使役 地域特徴 再帰 アイヌ語 ニヴフ語 日本語方言

1. 研究開始当初の背景

日本語北海道方言、アイヌ語、ニヴフ語をそれぞれ独自に研究してきた研究者が、三つの言語の他動性交替のあり方を比べることによって語族を越えた地域特徴を見つけることができるのではないかと考えたのがこの研究計画の背景である。

2. 研究の目的

本研究計画は、北海道およびその周辺地域における他動性交替のあり方を明らかにすることを目標とするものである。具体的には、日本語北海道方言、東北地方の諸方言、アイヌ語、ニヴフ語などにおける他動詞化と自動詞化のストラテジーの類似点と相違点を明らかにすることを旨とする。これらの言語体系の他動性交替のあり方を明らかにすることは、日本語方言の文法特徴を系統の異なる地域的に隣接する言語の中で位置づけること、マイクロヴァリエーション研究への接続、逆使役に関する通言語的な研究への貢献の3点で言語学への貢献が期待できる。

3. 研究の方法

三つの言語の他動性交替に関するデータを集め、それを分析することを通して、共通点と相違を明らかにするという対照言語学的なアプローチを採用し、分析には言語類型論や理論言語学の成果を応用することにした。

4. 研究成果

(1) 北海道周辺で話されている日本語北海道・東北方言、アイヌ語、ニヴフ語は、語彙的他動性交替に関しては相違が観られるものの、生産的形態法を用いたそれには共通点が見られることが明らかになった。具体的には、これら三つの言語は生産的形態法を用いて使役型の他動詞化と逆使役型の自動詞化を行えるという共通特徴を持つ。北海道・東北以外で話されている日本語の方言では、生産的な他動性交替が使役化しかない。生産的形態法における双方向的な他動性交替は語族を越えた地域特徴と考えることができる。

上記が本研究プロジェクトの主要な研究成果である。この研究成果は2014年秋に日本国内で出版された(発表論文の)。また、2015年6月にはブカレストで開催される国際学会で口頭発表する予定である。

(2) 本研究プロジェクトでは、三つの言語体系の他動性交替を対照する中で、それぞれの言語体系内部の他動性交替に関しても理解を深めるべく努力した。その結果、各言語の他動性交替に関連する論文を複数出版することができた。

(3) また、日本語に関しては、方言間で他

動性交替に関する違いがあるため、方言間の対照研究も行った。北海道・東北地方の方言が生産的他動性交替においてアイヌ語やニヴフ語と共通する特徴を示すためには、他の地域の方言と他動性交替に関して異なることを示す必要がある。そこで、研究代表者は南で話される日本語族の代表である首里方言の研究者と他動性交替に関する研究を進め、北海道方言が標準語よりも自動詞化が盛んであり、首里方言が標準語よりも他動詞化が盛んであることを明らかにした。この研究は、現在印刷中の論文集(くろしお出版から刊行予定)に収録され出版される予定である。

(4) 本研究計画の成果の中には、研究期間内に出版されず、近日中に出版される予定のものがある。

以下の2本の論文は初校ゲラの校正が終わり、年内に出版される見込みである。佐々木冠(近刊予定)「北海道方言における形態的逆使役の類型論的位置づけ」『認知類型論』中村渉編。くろしお出版

佐々木冠・當山奈那(近刊予定)「日本語族における他動性交替の地域差」『他動性交替の本質：日本語と諸言語の対照から見えてくるもの(仮題)』パルデシ・ブラシャント、ナロック・ハイコ、桐生和幸編。くろしお出版。

以下の論文は最終的な編集作業の段階に入っており、近日中に出版される見込みである。

Sasaki, Kan (forthcoming) Anticausativization in the northern dialects of Japanese. In: Taro Kageyama and Wesley M. Jacobsen (eds.), *Transitivity and Valency Alternations: Japanese and Beyond*. Berlin: De Gruyter Mouton.

(5) 本研究プロジェクトを進める中で、様々な言語で他動詞を自動詞にする際に用いられる形態素が自動詞にも附属する現象があることに気づいた。自動詞化の機能を担う形態素が自動詞に附属する現象は一見すると意味的に余剰性と思われるが、何らかの機能を担っているものと考えられる。この問題について考察するため、最終年度に研究会を持ち、そのときに集まった様々な言語(フィンランド語、モンゴル語、リトアニア語、ルーマニア語、ケセン語、日本語福島方言、そして、アイヌ語、ニヴフ語、日本語北海道方言)の専門家によって今年度から新しい科研費を使った研究プロジェクトが立ち上がった。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計5件)

Sasaki, Kan, Non-universality of reflexive analysis for anticausativization: Evidence from

the Hokkaido dialect of Japanese, 『札幌学院大学総合研究所紀要』、査読なし、第2巻、2015、7-29.

奥田統己、「アイヌ語の人称表示における『目的格』の優勢、アンナ・ブガエワ、長崎郁(編)『アイヌ語研究の諸問題』、査読なし、2015、27-36.

佐々木冠・奥田統己・白石英才、「北海道周辺言語における他動性交替」、『北海道方言研究会40周年記念論文集 生活語の世界』、小野米一・菅泰雄・佐々木冠編、査読なし、2014、128-135、札幌：北海道方言研究会.

Sasaki, Kan, Anticausativization in the Hokkaido dialect of Japanese, Asian and African Languages and Linguistics, 査読あり、7、2013、25-38.

Shiraishi, Hidetoshi, Phonologically-conditioned allomorphy in Nivkh, Asian and African Languages and Linguistics, 査読あり、7、2013、67-80.

〔学会発表〕(計14件)

奥田統己、アイヌ語の再帰を再考する、「自動詞化の通言語的研究」研究発表会、2014/09/27、札幌学院大学

佐々木冠、他動詞から派生した自発述語と自動詞から派生した自発述語、「自動詞化の通言語的研究」研究発表会、2014/09/27、札幌学院大学

白石英才、ニヴフ語における逆使役動詞の確認作業、「自動詞化の通言語的研究」研究発表会、2014/09/27、札幌学院大学

奥田統己、アイヌ語の部分再帰接頭辞と自動詞化、2014/11/09、北海道方言研究会第210回例会

佐々木冠・當山奈那、他動性交替の地域差、中日理論言語学国際フォーラム2013、2013/07/14、同志社大学今出川キャンパス

佐々木冠・奥田統己・白石英才、北海道周辺言語における他動性交替、北海道方言研究会第200回記念大会、2012/11/18、北海道大学

Sasaki, Kan, Anticausativization in the Northern Dialects of Japanese, NINJAL International Conference "Valency Classes and Alternations in Japanese", 2012/08/04、国立国語研究所

佐々木冠、北海道方言の他動性交替、国立国語研究所 共同研究プロジェクト「述語構造の意味範疇の普遍性と多様性」、2012/02/04、TKP 東京都八重洲カンファレンスセンター

佐々木冠、他動性交替の地域特徴、琉球語研究会若手研究者育成セミナー、2012/01/22、琉球大学

Shiraishi, Hidetoshi, Phonologically driven allomorphy in Nivkh transitive

verbs, アジア・アフリカ言語文化研究所 (ILCAA) 国際ワークショップ Transitivity and its related phenomena, 2011/12/04、東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所

Sasaki, Kan, Anticausativization in the Hokkaido dialect of Japanese, アジア・アフリカ言語文化研究所 (ILCAA) 国際ワークショップ Transitivity and its related phenomena, 2011/12/03、東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所

佐々木冠、東日本の方言における格配列の多様性、北海道方言研究会第194回例会、2011/09/18、札幌東区民センター

佐々木冠、方言調査におけるインターネットの利用価値：北海道方言逆使役構文調査を例に、日本実験言語学会第4回大会、2011/09/02、室蘭工業大学

Sasaki, Kan, Valency Classes in Japanese II: Dialects, Conference on Valency Classes in the World's Languages, 2011/04/15, Max Planck Institute for Evolutionary Anthropology

〔図書〕(計1件)

白石英才、ガリーナ・ローク、『ニヴフ語音声資料10 イヴァノヴナ・リュトヴァ』、札幌学院大学、2014、88

〔産業財産権〕

出願状況(計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等
<http://valpal.info/languages/japanese-mitsukaido>
<http://valpal.info/languages/japanese-hokkaido>
上記の二つのウェブページは、マックス・ブ

ランク進化人類学研究所の結合価交替研究プロジェクトの成果である。北海道方言と水海道方言に関するデータは研究代表者が提供したものである。2014年12月20日に公開された。

6. 研究組織

(1) 研究代表者

佐々木冠 (SASAKI, Kan)
札幌学院大学・経営学部・教授
研究者番号：80312784

(2) 研究分担者

奥田統己 (OKUDA, Osami)
札幌学院大学・人文学部・教授
研究者番号：60224151

白石英才 (SHIRAISHI, Hidetoshi)
札幌学院大学・経済学部・教授
研究者番号：10405631

(3) 連携研究者

()

研究者番号：